

【質疑要旨】		報告者	政策企画課	新井
名 称	「第6次基本構想・第2期基本計画(案)」地域説明会(ふじみ野交流センター)			
日 時	令和7年10月2日(木) 午後7時00分～午後9時4分			
場 所	ふじみ野交流センター 多目的ホール			
出席者	説明担当員 質疑対応員	市長、副市長、教育長、各部長		
	事務局	政策企画課		

【意見・質疑応答】

■質問者

- ①ふじみ野東地域では区画整理完了後、多くの人が入ってきた。しかし、地域コミュニティの形成ができていないと感じる。市としても、まちづくり協議会とかの形で、機能化をしていただきたい。
- ②人口ビジョンの推移の中で、今後の人口減少を踏まえると人口を流入させていく必要があると思う。流入させるためには市の魅力を発信して、例えば東京から地方に、と考えた際に富士見市に行きたいと名指しされるような市にしていくために、具体的な施策を教えてください。
- ③基本計画の30の事業分野について、1期から4期までのそれぞれの期の目標や施策がもう少し具体的になると良いと感じた。

➤回答（市長）

- ①現在、市内に55の町会があり、概ね各小学校区においてまちづくり協議会の設立を進めている。勝瀬東側、西側の町会においてもまちづくり協議会の設立に向けて今後も努力していきたい。
- ②人口についてはご質問のとおり、今後減少していくことが推計されている。5年前に組織改正によってシティプロモーション課を作り、市の魅力発信を行っており、これまでの実績として東武東上線への電車広告で富士見市の魅力を発信するなどしてきた。今後もSNSなども使いながら魅力の発信に努めていきたい。
- ③各分野の目標や施策についても今回の説明では抜粋、ダイジェストでご説明させていただいた。現在ホームページにて公開しているパブリックコメント案では全文を公開しているので、ぜひご覧いただきたい。

■質問者

インとアウトについて、もう少し考えた方がよいと思う。アウトの話がメインになっており、お金が出ていく話になっている。今回説明いただいた中では産業団地がインの部分になると思うが、ここをもっと攻めていかないと地方に回ってくる税収が少なくなる中で今後厳しくなってくると思う。産業団地の整備についてはしっかり力を入れて進めていただきたい。

➤回答（市長）

市としては産業団地においても雇用の創出も考えており、物流倉庫などよりも、より雇用が生まれる企業を、という形で埼玉県企業局にお願いをしてきた。

また、水谷柳瀬川地域においても、農地を工業団地に転換するという非常に時間のかかる協議となるが、時間をかけてしっかり進めていきたいと考えており、ご理解いただきたい。

■質問者

現在スクールガードリーダーをしているが、歩道の植え込みが高くなってしまっており、子どもたちの姿が見えづらくなっていて危ないと感じる。剪定の頻度を上げるなど、しっかり手入れをしてほしい。

一方で、新庁舎の建設などに多額の経費がかかると思われるので、植栽のメンテナンスに掛かる経費をできる限り抑えられるような工夫も考えてもらいたい。

➤回答（市長）

通学時のお子様の姿が見えないという状況は安全管理上も問題があり、安全のため定期的な維持管理を心がけていく。また、危険な箇所については速やかに対応をしたい。

経費の削減についても、行財政改革の観点で常に進める必要があるものと認識しており、ご意見としてしっかりと受け止めさせていただきたい。

■質問者

街路樹の問題として、風に乗って種子などが飛んできて生えている雑草・雑木など、必要のない草木については枝の剪定だけではなく根元の部分からしっかり伐採してもらいたい。また、区画整理事業によって勝瀬原記念公園ができ、四季を感じられるような様々な樹木があり、大変魅力を感じる公園となっているが、鬱金桜が根元から伐採されており、何とも言えない悲しい気持ちになった。また、街路樹のハナミズキなど、枯れている木や枯れそうなものも見かける。そういったものは取り除いて、新しい植樹をしてほしいと思う。ときがわ町の植樹も素晴らしいことだが、私たちの近くの枯れた木も生きた木に変えてほしいと思う。落ち葉の処理が大変なのであれば伐採にかかる費用を落ち葉の清掃費用に充てるなど、工夫をしてほしい。

隣接するふじみ野市の街路樹は青々としているのに、富士見市の街路樹は枯れていたり、枝が変に伸びていたり、剪定の仕方にも問題があるのではと思ってしまう。住民としても協力していきたいと思うので、緑豊かなまちにしていきたい。

➤回答（市長）

剪定の方法については計画をもって定期的に行っているが、一定の間隔を保つために強剪定を行って次の剪定までの時間を空ける、という考えでそのような方法を取っているということもあるかと思う。緑豊かな富士見市を目指してほしいというご要望については例えば枯れているような街路樹について、低木や強い樹木に変えていくなど、今ある樹木をどのように管理していくか、検討をしていきたい。

■質問者

学校に行くのが楽しいと回答した子どもの数の目標値があったが、逆に言うと楽しくないと思っている子が約15%前後いるということだと思うが、そういった子は今学校を休みたいと思っているのか、不登校になっているのか、心配と感じた。専門性を持った対応ができるように手厚くしてほしいと思う。

また、そういった子が孤独にならないような支援、見守れる環境も必要と考える。学校単位でもよいので、そういった子どもたちの家族と、学校のカウンセラーの方をマッチングして解決に繋げるような手立てがあればと思うが、どのように考えているか伺いたい。

➤回答（市長）

コロナ前までは富士見市の不登校の児童生徒数は県平均を下回る数値だったが、コロナ禍を経て徐々に増えてきており、我々も学校教育に関する大きな課題であると認識している。跡見学園女子大学の心理学部の先生や学生に、不登校の児童生徒のご両親とグループディスカッションをして、それぞれの悩みについて話し合う場を設けるなど取り組んできたが、今後も様々な取組を進めていきたい。

➤回答（教育長）

不登校については抱えている課題や、不登校となった理由、その子にあった手立ては千差万別で多様な解決方法が必要となる。学校には行けるが教室には入れない、といったお子さんのために教室ではないところで勉強ができる環境も整えつつある。加えて、場所だけではなく、指導する人の部分も手厚くする計画も準備を進めている。

また、ふじみ野小学校の教育相談室や公民館などでの出張教育相談室（教育支援センター）といった場所も用意し、それぞれのお子さんに合った教育の提供や、ご両親に対してもスクールカウンセラーや教育相談室などで相談できる体制を整備しており、そういった支援が十分に届くように今後も取組を進めていきたい。

■質問者

老人会の中で、老人福祉センター（びん沼荘）が2年後には廃止されるのではという話を聞いている。また、バスも少なく、デマンドタクシーも呼んでもなかなか来ないといった状況があり、老人福祉センターに行きたくても足が無くて行けない状況となっている。

➤回答（市長）

老人福祉センターについては、築年数もかなり経っており、公共施設マネジメントの中でもそのあり方について検討の対象とさせていただいている。利用させていただいている皆様には大変親しんでいただいている場所であるという認識をもって検討を進めており、ご理解いただきたい。

以 上